

# 第3学年1組 道徳科学習指導案

平成30年10月12日(金) 第5校時  
在籍 男子13名 女子17名 計30名  
授業者 池端 美希

## 1 主題 内容項目【A-4 個性の伸長】

- 2 本時のねらい 主人公に自分を重ねて登場人物の心情について話し合ったり、家族からみた自分の良いところを知ったりする活動を通して、自分のよさを知り伸ばしていこうとする心情を育む。
- 教材名 今日のヒーロー (出典「彩の国の道徳 夢に向かって」埼玉県教育委員会)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容について

小学校3年生及び4年生の指導の観点は、「自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。」である。この内容項目である「個性の伸長」は、低学年「自分の特徴に気付くこと。」によって育まれている。更に高学年では、「自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。」、中学校では「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。」に発展していく。

この段階における自分の特徴に気付くということは、自分の長所だけでなく短所についても気付くことであり、特徴を多面的に捉えることである。その上で、自分の特徴である長所の部分を更に伸ばしていきながら、自分の個性に気付くようにすることが求められる。そのためには、児童が視野を広げ、他の人々の多様な個性や生き方に触れ、憧れや希望を抱ける多様な場面や機会を生かしていけるようにする。そのような中で、自分の特徴に気付くようにしたり、長所を伸ばしていこうと考えられるようにしたりする。

指導に当たっては、友達など他者との交流の中で互いを認め合い、自己を高め合える場を設定したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切となる。

### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、約束を守ったり人に親切にしたりすることが自分からできる児童が多く、友達にも優しい。また、友達の良さを素直に認め、褒めたたえる心の豊かさを持っている。しかし、自分の長所にはなかなか気づけなかったり、自分の良さを認められなかったりする様子が見られる。9月に全校で行った「よいところハート」の活動では、自分のよいところを見つけられず、「いいところなんてない。」「何て書いたらいいのかわからない。」などの声が挙がっていた。

児童に行った意識調査では、次のような結果であった。(一部抜粋)

・得意なことや好きなことはありますか。	ある	93%	ない	3%	わからない	3%
・自慢できるようなことがありますか。	ある	66%	ない	13%	わからない	20%
・自分にはいいところがありますか。	ある	63%	ない	3%	わからない	33%
・自分のことが好きですか。	好き	26%	好きでない	16%	どちらでもない	56%

自分の好きなことや得意なことについては自覚しているが、自分のいいところに気付いていない、もしくは自信を持ってない児童が少なくない。また、自分のことが好きではない、好きだと言えない児童が多いことも課題である。「よいところ」とは何か、価値づけができなかったり、自分の短所ばかりが意識されたりする児童も多いように感じる。そこで、本時では「自分のいいところ」を考えながら、自分の「よさ」を肯定し、更に伸ばしていこうとする意欲を喚起したい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、自分のよさに気付かず、自分のよさを模索している主人公まゆみが、お母さんの言葉を通して自分のよさに気付いていくという話である。「自分のよさ」ということについて、あまり気付かない子供たちも、友達や家族の人と話し合うことを含め、「自分のよさ」というものをじっくり考えさせたい。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うこととする。

①目を輝かせながら話す洋子を見ている場面

ここでは、洋子の生き方について憧れを抱くまゆみの気持ちに共感させる。

②「だれにでも良いところがある」という先生の話の話を聞いている場面

ここでは、自分によいところなどあるのだろうかと思ひ悩むまゆみの気持ちに共感させる。

③自分のよいところに気づき、母親に報告する場面

ここでは、自分の長所を認め、伸ばそうとすることの大切さについて考えさせる。

また、児童が自分事として問題を考えられるように、「友達のいいところ、自分のいいところってどんなところだろう。」と導入で価値について問いかけることで、ねらいとする道徳的価値への意識づけを図る。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 研究主題との関わり

研修主題

自己肯定感を高める道徳教育～授業づくりを通して～

【仮説】

教材文を自分事としてとらえ価値について考え、家族から見た自分のよさを客観的に知ることができれば、自分のよさを認め伸ばしていこうという心情が生まれ、自己肯定感を高めることができるだろう。

【手立て】

本時では、教材文を自分事としてとらえることができる様に、自我関与が中心の学習を展開する。「自分のよいところ」＝長所に気付かせることを、自分だけでなく、「人とのかかわり」の中で気付かせるように配慮する。そのために、保護者に事前に協力を働きかけ、児童一人一人のよいところを書いてもらったものを終末で児童に読ませる。自分のよいところを客観的に知ることにより、自分のよさに気付かせたい。

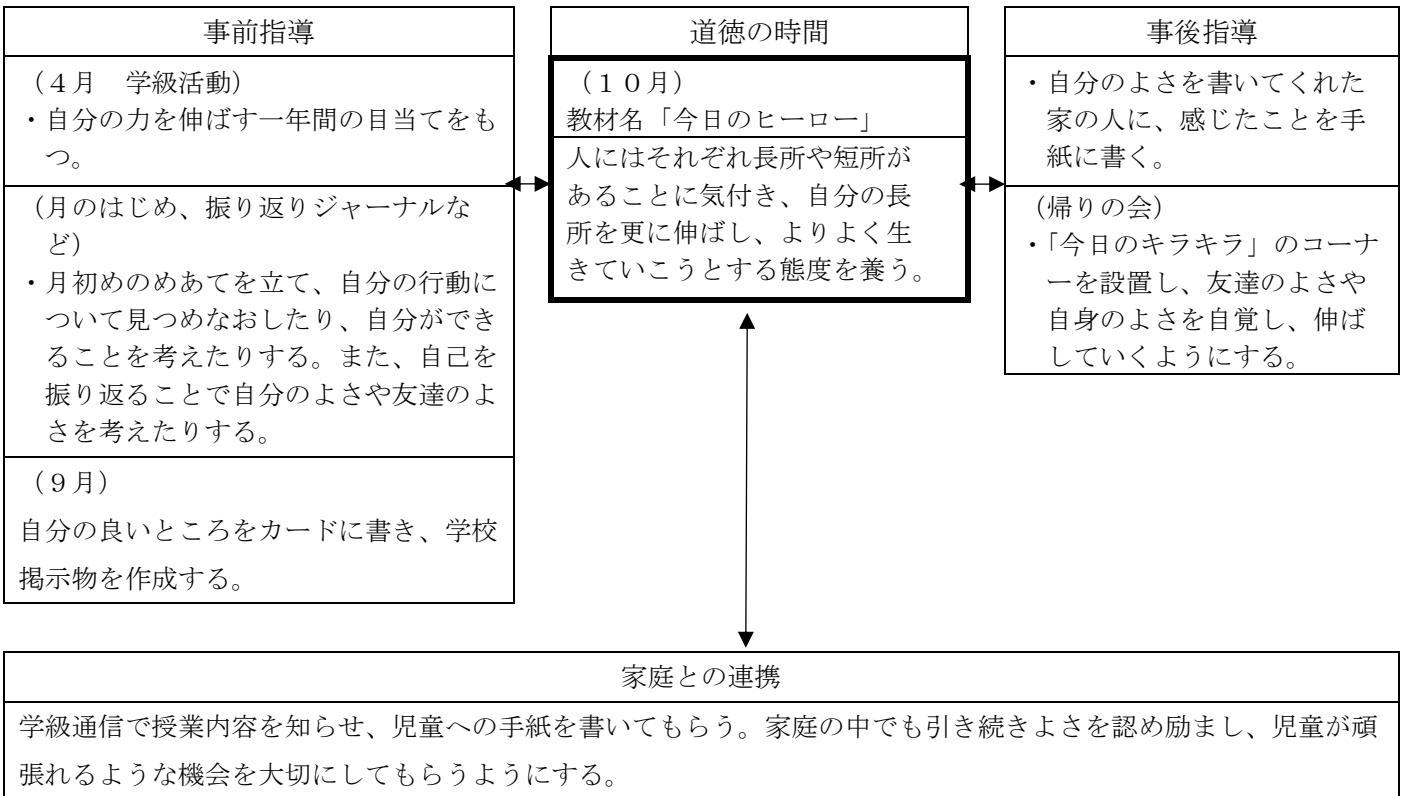
また、自分のよさに気づき、他のよさも認める機会を、朝や帰りの会、他教科の授業の中で意図的に設定する。そして、互いに認め合い、共に高めあおう、よりよく生きようとする子どもを育成したい。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 友達のいいところを発表する。</p> <p>○友達のどんなところをいいところだと思いますか。</p> <p>○自分のいいところはどんなところですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときに助けてくれるところ。</li> <li>・やさしいところ。</li> <li>・賞状をもらっていてすごかった。</li> <li>・いつも元気で明るいところ。</li> <li>・自信がない、わからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値への意識付けをするために、友達のいいところを想起させる。</li> <li>・自分の考えを自由に発表できる雰囲気を作る。</li> <li>・自分のいいところを聞かれると自信がなくなってしまう気持ちを持たせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分の「いいところ」について考えよう。</div>			

展 開	<p>2 教材「今日のヒーロー」の読み聞かせを聞き、登場人物の心の変化を中心に話し合う。</p> <p>(1) 目を輝かせながら話す洋子を見てまゆみはどう思っただろう。</p> <p>(2) 先生の話を書いたときのまゆみさんはどんな気持ちでいるだろう。</p> <p>(3) お母さんはどんな気持ちで「まゆみのいいところあるわよ。」と言ったのだろう。</p> <p>(4) 自分のよさを見つけられたとき、まゆみはどんな気持ちになっただろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋子さんすごいなあ。</li> <li>・私にはそんなことできない。</li> <li>・私には何ができる？</li> <li>・いいところがわからない。</li> <li>・悪いところは見つかるけど。</li> <li>・いいところなんてない。</li> <li>・いいところなんてあるのかな。</li> <li>・自分では思いつかない。</li> <li>・自分のよいところに気付いてほしい。</li> <li>・まゆみにもよいところはたくさんある。</li> <li>・もっと自分のよさを知ってほしい。</li> <li>・私にも良いところはある。</li> <li>・気づかなかっただけで、いいところはあるかも。</li> <li>・自分では分からなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まゆみの気持ちになって、問題意識をもちながら範読が聞けるような言葉がけをする。</li> <li>・本を読むことが好きな洋子が、それを生かして読み聞かせをしている話を聞き、洋子の生き方に感心している気持ちを考えさせる。</li> <li>・「よいところハート」を書いた活動を想起させ、自分のよさが見つからず、悩んでいるまゆみさんの気持ちに共感させる。</li> <li>☆まゆみの気持ちに共感し、自己を見つめている。</li> <li>多面的多角的に考えられるように、まゆみの母親の気持ちについても考えさせる。</li> <li>・書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。</li> <li>・席が近い児童と書いた内容を交流させる。</li> </ul>
	<p>3 課題に対して自分なりに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して自分の「よいところ」について考えて、気づいたことや感じたことはありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づいていないだけで、自分にもあるもの。</li> <li>・自分では見つけにくいもの。</li> <li>・友達にたくさん教えてあげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆これまでの自分を振り返りながら、自分にもよさがあるということに気付いている。</li> </ul>
終 末	<p>4 家族からのメッセージを読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな風に思ってくれていたんだ。</li> <li>・自分にもいいところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりとメッセージを味わえる雰囲気作りをする。</li> <li>・よさを大切に、伸ばしていこうという意欲がもてるように余韻をもって終わりにする。</li> </ul>

6 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自分を投影しながらまゆみや母の心情を考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分のよさを認め伸ばしていこうとする意義について、自分との関わりで考えている。

7 板書計画

10 / 12

友達のいいところ

- ・やさしいところ
- ・遊びに誘ってくれる。
- ・元気で明るい。

自分のいいところについて考えよう。

- ・自分では気づけなかったけど、自分にもあるもの。
- ・頑張っていることもいいところ
- ・毎日つづけていること
- ・友達にたくさん教えてあげたい

今日のヒーロー

○洋子さんの話を聞いたまゆみ

洋子さんすごいなあ。自分のことをわかっている。私にはできない。私には何ができるかな。

人には必ずいいところがありますよ。

○先生の言葉を聞いたまゆみ

いいところがわからない。悪いところはすぐ見つかるに…いいところなんてない。思いつかない。自分ではわからない。

◎自分のいいところに気づいたまゆみ

- ・私にもいいところがあるんだ。
- ・気づけなかったけど…
- ・よさってみんなちがう。
- ・私もいいところをもっといかしていきたい。

なかまに入れてあげた

毎日おみまいに

○お母さんの気持ち

- ・よさに気付いてほしい。
- ・自分のよさを知ってほしい。
- ・いいところたくさんあるよ!
- ・あなたはステキな人

小さい子のお世話が好き

本を読むことが好き

私のだるう。のよいところって